

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第3回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和5年1月26日(木) 午後7時00分～午後9時15分		
開催場所	茅野市役所 大ホール		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章会長、両角薫副会長、戸川榮司委員、岩下ふみ子委員、伊藤あや子委員、小坂秀王委員、北澤いずみ委員、木村香穂里委員、名取哲男委員、市川八史委員(代理)、宮原渉委員(代理)、勅使川原はすみ委員、古畑祐二委員、竹村清子委員、味澤広明委員</p> <p>【市側出席】 山田教育長、五味こども部長、依田健康福祉部長、守屋地域福祉課長、阿部こども課長、柳澤幼児教育課長、五味学校教育課長、長田生活福祉係長、両角こども・家庭支援係長、白鳥こども・家庭相談係長 宮下こども係長、飯島こども係こども育成担当、高橋こども係主査、小平こども係主査</p>		
欠席者(委員のみ)	大作公明委員、渡辺修委員、原田正樹委員、加藤昌志委員、宮坂雅昭委員		
公開・非公開の別	公開	・非公開	傍聴者の数 5名
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
副会長  教育長	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 教育長あいさつ</b></p> <p>2日ばかり大変寒い日が続いています。こんな寒い中お集まりいただき本当にありがとうございます。</p> <p>パブリックコメントにあたりましては、大変多くのご意見をいただきました。ご意見をされた方々に感謝申し上げたいと思います。今後いただいたご意見を参考に、より良い計画を作ってまいります。</p> <p>なお本日は、パブコメの結果、それから計画書の修正についてお諮り申し上げます。どうか委員の皆様よろしくお願いたします。</p> <p><b>3 会議事項</b></p> <p><b>(1)審議会等の会議の公開の確認</b> 事務局より、茅野市審議会等の公開に関する要綱にのっとり、本日開催のこども・家庭応援会議について、原則公開の対象となる旨を説明。 会議の公開及び議事録の公表について委員の承認を諮ったところ、全員異議なく承認。</p> <p><b>(2)茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画について</b> ○パブリックコメントの結果について【資料1】 ○計画書の修正について</p>		

<p>会長</p>	<p>茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進計画についてのパブリックコメントを受けて、修正等がされた案が出ていますので、それについて、事務局よりご説明をいただきたいと思います。</p>
<p>子ども課長</p>	<p>昨年開催いたしました本会議では、茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進計画素案、また、パブリックコメントの実施等につきまして、様々なご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日は、本計画の素案について、ここでパブリックコメントを終えまして、その意見の集約と、市の考え方がまとまりましたので、ご説明をさせていただきます。</p> <p>資料1,2,3に基づき、パブリックコメントの実施状況、いただいた意見と市の考え方について説明</p> <p>※パブリックコメントの実施状況 11名の方から54件のご意見(提出方法別:メールが9名、持参2名) 本計画に直接関係ないと考えられる意見は公開しないこととした。</p> <p>※いただいたご意見とそれに対する市の考え方(資料1参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○素案を修正したもの (項番: 3、17、18、19、20、21、22、31、39、40、41、43、44、51)</li> <li>○素案に賛同いただいたもの (項番:11、24)</li> <li>○計画の参考とさせていただくもの (項番:1、2、4、6、7、10、12、13、15、16、23、27、29、32、33、34、35、36、37、38、42、45、46、47、48、49、50)</li> <li>○その他、要望、意見等 (項番:5、14、25、26、28、30、52)</li> </ul> <p>※素案修正箇所(資料2、3参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①表紙 計画の名称で、括弧書きの茅野市子どもの貧困対策計画を削除</li> <li>②素案28ページ 基本理念前文の部分を要約 基本理念を修正</li> <li>③素案33ページ 関係機関へのつなぎの強化の図について、 保育園部分に認定子ども園を追加 関係機関の児童家庭支援センターつつじを児童家庭支援センターへ修正(つつじの記載を削除)</li> <li>④素案34ページ(1)教育の支援【主な取組・事業】 小中一貫教育推進事業、コミュニティスクール促進事業を削除 素案36ページ(2)生活の支援【主な取組・事業】 ナンバー17の事業内容の説明に、地域の資源という言葉を追加 ナンバー20・26の事業内容の説明を修正</li> <li>⑤素案41ページ～55ページ 第7章として資料編を追加</li> </ul>

<p>会長</p>	<p>今日の議題はこれが全てですので、ここに時間をかけたいと思います。</p> <p>皆さんご関心のあるところが色々あったと思いますので、そこを中心に、例えばパブリックコメントを見ていただいて、そこにどんな市民の声が集まったのか等を見てご意見を、また、素案に案が出ているのをどうしていくのか、まずは事務局として市の考えが反映されていることに対して、この会議のメンバーで、市民の代表でありますので、意見を足していって、確定、確固たるものにしていくという流れになると思います。</p> <p>少々時間がかかるかと思いますが。私も前回の第2回に出席できなくて大変申し訳ありませんでした。そこで、私も資料に目を通しまして、また、色々なところで意見を聞いてきましたので、皆さんに少し時間をとっていただくこともあって、その辺のことも踏まえてちょっと話をしながら進め、それでまた委員から、着目した視点からコメントをいただきながら進行できればなと思っております。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>パブリックコメントを全般的に見まして、どこが削除されたかなど、変更箇所が示されていないのでわかりにくいですが、表紙のタイトルから括弧書きの子どもの貧困対策という記述が消えて、豊かな未来づくり推進計画になったということで、中身は貧困のことで分析しているのですが、表紙から貧困を外しているということだと思います。</p> <p>私がこの中身を読んで良い考え方だと思ったのは、貧困ということで、経済的な貧困、生活困窮ということで述べられているのですが、実は5ページの7番で子どもの貧困の捉え方というところがありまして、必ずしも経済的な理由ではなく、機会損失が起きているようなことも貧困であるというふうなことが述べられていることです。</p> <p>結局、経済困窮だけではないということが述べられているのかなと思いましたので、そういう意味では貧困というものがある意味では、この計画のところで変に強調されないって意味で、括弧をとったというのはいいいのかなとちょっと思ったりしました。</p> <p>あと、28ページの基本理念のところ、貧困の連鎖を断ち切るために必要なことということで、連鎖なのですよ。</p> <p>だからこそ、何も現在経済が困窮していなくても、例えば、豊かに成長する機会が奪われてしまえば、それが結果的にその子どもの将来の貧困を招いてしまう可能性も含んでいるということで、広く、現在の経済的困窮だけでなく、学びの機会の拡充だとか、そういったチャンスが無くならないようにということで書かれているので、なるほどとてもいいなというふうに読ませていただきました。</p> <p>そんなところを最初の入口として、基本理念のところも変わったということで、その辺も含めて委員のお気づきの範囲で、何回もまわしますので、意見ををお願いします。</p> <p>また意見を聞きながら気づくところも増えてくると思いますので、時間の許す限り意見を拾って行って、比較的市民から多く意見が集まっており、僕らが気付かないところが集まっていると思いますので、パブリックコメントを見て気になったところ、或いは自分の中で気になったところなどコメントいただければと思います。</p>
-----------	--

委員	<p>かなり子どものこと等についてしっかりと考えていただいている方からの意見なものですから、ぼやっとしているところを明確にしたりというところの中で、例えば何かのカウントの仕方だとか、対策の仕方で、前回の会議の時にもありましたが、関連してネットワークを作って対策をしていくというところについても、最初の案から増えて、こういうところも連携しているということで増えているところがあったりするものですから、そういうところに気づかしていただいているなというような感じがしております。</p> <p>ちょっとまだ中身について具体的にご意見を差し上げるような段階ではございませんが、そのような思いがありまして、前に着実に進んでおるなというところを感じております。</p>
委員	<p>先ほどの基本理念のページのところ、前回の素案と比べてみますと簡潔にまとめられていますし、この基本理念の言葉が、成長していけるまちということで、細かいところに触れるのではなく、大きく将来ってというようなところが見通せるような言葉になっていて、いいのではないかなと思ったところです。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。ちょっとこの基本理念で、非常に些末なことであるのですけども。</p> <p>理念って言った時に、これ「まち」だから、名詞で終わっちゃっていますよね。行動計画だったら、何かをするっていう方がいいのではないかと思います。確かに前文の中にそういったまちづくりを目指すということが言われているので、いいのかなと思う反面、何となく名詞で終わっているのが理念なのかなあ、というふうな気がしました。</p> <p>何を何するみたいな行動指針の理念の方がいいのかなという気がちょっとしました。</p>
委員	<p>たくさん市民の方からこういったコメントをいただくということがやっぱり素晴らしいなと思いました。</p> <p>この思いを大事にしながら修正をしてくださった方に敬意を表します。</p> <p>修正箇所を見させていただきますと、すっきり筋が通ってきたのかなということを感じました。</p> <p>大事なところが、先ほどからも話題になっていますけど、連鎖をしないためのまちづくりにしていくのだということがとても大事だなと思いましたので、そのところを大事に今後も進めていただけるとありがたいかなと思います。</p>
委員	<p>沢山の方からこんなにパブリックコメントをいただいたのでびっくりしたのと、それに対してみんな真摯に市でもきちんと回答しているなと思います。それで、そのほとんどがこの市の計画に対して賛成のご意見をいただいているということで、このまま進めていけたらいいと思います。</p>
会長	<p>そうですね、パブリックコメントには否定的なニュアンスは入っていないですよ。</p> <p>だから結局、足りてないところがあるよっていう指摘かなと、もっとこの辺が足りてないのではないかとということで、やること違うよねというほどではないっということですよ。だから賛同が入っている。</p> <p>なので、その足りてないところをどう補っていくかというのが、この私たちの会議体で考えていくことなのかなと思います。</p>

委員	<p>今、会長さんがおっしゃったように、否定的な意見ではなくて、この計画を認めつつもここがわからない、ここをこういうふうにした方がいいという、前向きなご意見が多いかなという気はしました。</p> <p>事務局の方たちがしっかりそれを受けとめて回答していただいて、計画の方も前回よりも見やすい感じになっているのかな、わかりやすくなっているのかなという気はしますので、この後、じっくり見させていただいて、どこがどういうふうに変ったのかっていうことも含めて見させていただければと思います。</p>
委員	<p>皆様のご意見はまさにその通りだと思って聞いております。</p> <p>基本理念にある生まれ育った環境によって左右されという言葉は、まさに警察が少年と関わる上ですごく大事にしているところです。警察は、心身ともに未熟、善悪の判断がまだできないからこそ周囲の環境に左右されやすいというところで少年と関わっていますので、基本理念のところにそのような文字が入っているということは、警察としても、ありがたいことだと思っております。</p>
委員	<p>基本理念の方は、割とわかりやすくなっていいのかなと思いました。</p> <p>ちょっと過去のいただいた資料と変わったところを見比べているのですが、会長の言ったとおり、変わったところを記載していただけたとなお見やすいのかなと改めて思いました。</p> <p>資料2の④の部分を見ていると、こちら大幅に変ったのかなっていうふうな印象もあるので、変わったということはわかったのですが、なぜ変わったかというのはパブコメを見ながらやらないといけないので、ちょっとそこあたりが苦労するかなと思いました。ちょっとまた、改めて再度しっかりみたいと思います。</p>
こども課長	<p>ただいまのご質問は34ページの、主な取組・事業のところはどう変わったかっていうことでもいいかと思いますが。</p> <p>まず、先ほどの説明でもいたしましたけれど、(1)の教育の支援のところ、コミュニティスクールの推進事業と、小中一貫教育の事業について以前の計画には載っていたのですが、その事業が貧困対策に直接的に繋がるものではなく、広い意味での事業になってくるので、それを拾い上げるとぼやけたものになってしまうのではないかとということで、削除させていただいたところです。</p> <p>その他、36ページになります。事業のナンバーでいくと17番です。ここの、ながの子育て家庭優待パスポート事業の事業内容の説明文のところですが、ご意見で地域の資源を活用するという文言を入れると、なお良いのではないかとご指摘を受けましたので、そこについては地域の資源を活用し、というような表現を付け加えたということになります。</p> <p>その横の37ページのナンバー26になります。こころの相談事業につきまして、以前はうつ病等というような病名の表現があったのですが、それだけでは無いというご意見、そこにうつ病というような表現をいれるのはどうかというようなご意見もいただきましたので、事業の内容の説明文をほぼ変えています。</p> <p>健康状態や、生活困窮等による自殺を予防するため、心の健康についての講座の開催や、臨床心理士による面接を実施するというような説明文に変更をさせていただきました。</p> <p>以上が主な取り組み事業について、変えた部分となりますのでよろしく願いいたします。</p>

<p>会長</p>	<p>わかりやすく言うと、削除されたということで、新しく拡充したという話ではないって感じですね。</p> <p>だから項目が減っているっていうのと文言修正で、文言修正の一番大きなところはここの相談事業の事業内容の記載ががらりと変わったってことですかね。</p> <p>自殺予防のために、うつ病等を市民へ周知して広く理解していただく、あと、相談するように、受診を勧めるなどの啓発を行うというのが前回であり、修正後の今回は、講座、つまり該当者に対するの対策を取るという、まさにこういうことですよ、市民に啓発しようというところから、該当者へとがらりと変わったってことですね、そういった修正が行われたと。</p>
<p>委員</p>	<p>34ページからの子どもとその家庭への支援の辺りなのですが、貧困対策というか、まず子どもの命を守ることが一番なのではないかと思っていて。</p> <p>例えば保育園の連合会の中で出てきた話が、保育園などでちょっと虐待が疑われるとか、少し親のサポートした方がいいのではないかとという事例を、親御さんや先生が見かけた時に、それがうまく児童相談所なり、どこか相談窓口につながっているのかわからない。ずっとそのままの状態が続いているのだが、でもその状態を周りで見ている親御さんが、どこに相談したらいいのかもわからないということでした。</p> <p>親のサポートもない、やっぱり子どもの命を守るために、そういった機能がちゃんとできているのかってところが入るといいのかなと思いました。</p> <p>また、もう1点で、地域で夜中に保育園ぐらいのお子さんが外を歩いている姿が見られる。親御さんは夜お仕事に出かけていて居ない、そういう状況がわかっているのだが、それをどこに相談していいのかわからない。</p> <p>その子どもがもしかしたら事件に巻き込まれるかもしれない、事故に遭うかもしれない、けれどどうしたらいいのかわからないという声もありました。</p> <p>子どもの命を守るために、大人は何ができるのかということ、何をしたいかわからないという声、地域の繋がりも薄くなってしまっているから、地域としてどう関わっていいかわからないという声も上がっていましたので、子どもの命を守るための支援のようなものを入れていただけるといいのかなと思いました。</p> <p>あともう1つは、33ページのつなぎの強化の図ですが、認定こども園を追加していただいたということですが、保育園と認定こども園だけじゃなく、茅野市には幼稚園や他にもあるのではないかと思ったので、もし追加するならばもう少し追加した方がいいのではないかと思います。</p> <p>あとは36ページの20番から22番あたりの妊婦さんへのケア、産前産後のケアなのですが、若年妊婦さんに対する支援も茅野市でやっていらっしゃると思いますので、そういったことも入れていただけるといいのかなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね今のところで、素案を見て僕もちょっと類似しているかなと思って気になったのは、緊急性のあることへの対応と将来への投資的な対応っていう中で、緊急性のところ弱いのかなということです。まさに命を守るっていうことは緊急性の高いことなのかなという印象を受けました。</p> <p>そのときに、この推進計画は、その緊急性の高いところへの対応を含んで考えているのか、そうではないのかってことを今日は聞いてみようかなと思います。</p>

こども課長

たところですよ。命のことはそれですよ。

全般的には緊急性の高い話って施策にあんまり入ってない感じがあるのです。

だから、それは貧困の要因として見るのか、子どもの未来に対してやっぱりよろしくないことでこの中に入るのかと。

そういった2点のところですかね。

こういった今言った命のものとも入るのかと、あとは緊急性とそういったものってというのは、何か特にこう意識して分けているかっていうところですけどそれどんな感じでしょうかね。

緊急性というものについてここでは少し読み取りづらいような感じになっておりますが、35ページの(2)の生活支援の主な取組・事業ということで、ナンバー13の子ども家庭総合支援拠点事業ということで、茅野市では育ちあいちのという名称でそういった事案への対策を行っております。

それについて、この事業内容に書いてあるように、色々な相談員や専門員を置いておりますので、充実した組織、体制がとれるようになっております。

先ほどいただいた子どもの命を守るということについて、市に関して言えば、例えば夜中に歩いている子どもがいる、気になるお子さん、虐待を受けているのではないかというお子さんについては、この育ちあいちのが窓口となっております。

この事業は拡充としており、体制の拡充から関係機関の連携というところを強めていきたいと思っておりますので、事業内容の説明についても修正をさせていただきます。

それから、警察署や児童相談所と市との連携が取り易くなってきております。

警察に通報していただいても、児童相談所や市の育ちあいちのにも通報情報が入るようになっておりますし、児童相談所に通報いただいても市や警察での連携がとれておりますので、そういったお子さんについては、保育現場をはじめ、学校現場、また見かけた方には通告する義務が定められておりますので、まずはどこかに連絡をいただきたいです。

私どもについては、通報いただいた場合には安全確認を48時間以内に行うこととされており、すぐにお子さんの確認をさせていただきますので、この辺について広く周知していかなければいけないなどご意見を聞いて思いました。

そのため、文言の修正をさせていただきます。

もう一点、33ページの認定こども園を追加したことについてご意見をいただきましたが、茅野聖母幼稚園についても、名称は幼稚園を使っていますが、現在は認定こども園という取扱いになっています。

しかし、この表記についても、保育園と認定こども園という2つだけでなく、その他もということから、等というような表記を入れさせていただければと感じています。

あと、若い妊婦さんへの支援についても、要保護児童地域対策協議会において、特定妊婦ということで、市としても母子保健の分野と育ちあいちのが連携をとりながら、お子さんを安心して産めるような体制で、寄り添った支援をしておりますので、その点についても検討をしていきたいと思っております。

また、会長の方から緊急性についての表現が少し弱いのではないかというご指摘を受けたので、そこについても少し検討をしていきたいと思っておりますのでお願いします。

<p>会長</p>	<p>今、緊急性のあるものとか、生命とかというものもこの推進計画の中に入っているということを認識しました。</p> <p>それから、先ほど出た図の話は、これは図なので、直接、策定文そのものではないということでもいいですね。</p> <p>例えば、33ページの図は、認定こども園等とか、要するにここに関連全体を網羅しきれていないのではないかと、ここに書いてないからといってどうだということではないかなど。</p> <p>つまり、私も見てみたのですが、ここに書いてある図をどう解釈すればいいのかということがここではわからないので、これはイメージ図ということで良いのではないか、書いてなかったからといって関係者ではないということではないかなというように思ったりしています。</p> <p>あと、先ほどいろんな命とか、貧困や直接経済的困窮とかってということからするといずれも含まれているという。</p> <p>必ずしも、貧困の捉え方が経済に起因しないということで、広く子どもの未来を、あと、把握するってということ自体ここに入っていると。まさに足りないことがあれば、修正して追加していくということが最後の方にも書いてありますので、そこの中に入っていくのかなという期待はあるかなと思っております。</p> <p>相談体制のこととありましたので、この辺を、主任児童委員を務める視点からコメントや何か気づいたことはありますでしょうか。</p> <p>緊急性やつなぐといったことで、主任児童委員の仕事について聞いたので、つなぐというところに対する評価や、拡充についてのコメント等があればいかがでしょうか。</p> <p>今の話に関連しているかなと思いましたので、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>そのことを一旦置いておき、3点ほどあるのですが。</p> <p>1点目はタイトルについて、括弧書き部分を外したということでしたが、2ページのいちばん最後の行に括弧書きで茅野市子どもの貧困対策推進計画となっているので、これは取った方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>2点目は、パブリックコメントのところ、質問があって、それについて質問された方に応えるような部分がありますが、同じような質問は他の人も抱くと思いますので、この計画書の中で補足しておいた方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、質問ナンバー14の高等学校卒業後の状況の推移で、質問者に対して回答がありますが、これはこの部分のところ、茅野市内の高等学校のデータであるというふうに書いておけばいいということです。</p> <p>3点目は、地域の資源を活用するという表記を追加するというので、36ページのところですが、この地域の資源を活用するとか、あるいは地域で子育てを支援するとかという時に、福祉21のビーナスプランの中に、第4層、第5層、第6層と分ける考え方がありますよね、実際に我々が身近な町内会とか、いわゆる隣組とか。</p> <p>現状は、子育てに関しての子ども家庭の支援に関して機能していないと思うのです。</p> <p>昔、私の子どもの頃などは、隣近所でもっと色々支え合うところがあった、でも今は無い。もう無いからしょうがないとするのではなく、やっぱりこういうところは理想を掲げるべき部分がある。</p> <p>それなので、地域で支えるというところを33ページの図に無いから関係な</p>



	<p>いのだというのではなく、例えば地域のコミュニティ協議会だとか、町内会とか、隣組だとか、この図のどこかにそういうものがあれば。</p> <p>コミュニティ運営協議会の中には民生児童委員なんかも含まれていて、活動することが理想となっていますが、実際にはそうなっているところはそんなに多くないのだと思います。</p> <p>けれど、やっぱり掲げて、そういうことがうまくいくようにできたらなと思います。</p> <p>それで、先ほどの会長さんからの質問ですが。</p>
会長	<p>はい、主任児童委員から見て、色々なところの状況を拾ってつなぐという体制のところ、ここに書いてある文言で十分か、また、足りていないところがあるのかのような気付きがあれば。</p>
委員	<p>現状は、主任児童委員とかの認知度っていうのは低い部分もありますし、実際に茅野市の他の部分のところのネットワークが結構機能しているので、主任児童委員のように、つなぐという役割は、子育て家庭にとって、実際に支援までいく時の、色々なルートの1つだと思う。</p> <p>セーフティーネットの1つですので、主任児童委員を経由して、あるいは、民生児童委員を経由して色々な子育てに関するをつなぐということが実際にはあまりないのですが。</p> <p>申し上げたように、茅野市の子育ての色々なことが機能しているので、ある意味いいのかなというふうに思っています。</p> <p>出番が少し少なくても大丈夫でないかと思っています。</p>
会長	<p>茅野市いろんなところの、そういったつなげる体制が十分あるよということだと思います。</p> <p>次に行く前に、33ページの図は図でしかないのかという話もありましたが、市民の支え合い、地域ということはどうとらえているかってことですね、完全に落ちているのか。</p> <p>地域の支え合いというのは、この推進計画の中に入るや否やというのはどのように考えているのか。</p>
こども課長	<p>33ページの表ですが、ここももう当初からいろんな議論を重ねてきて、追加したり削除したりというようなことを繰り返してきました。あくまでも、こちらは相談支援体制のイメージ図っていうところで、こんな感じで連携し、連携を取れとっていくのだというイメージでとらえていただきたい。</p> <p>また今の課題、地域とどう繋がるかというご意見をいただきましたので、そちらについてどのような形にするか、地域と連携するのかというようなところも再度検討をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
会長	<p>ありがとうございます</p> <p>地区こども館だけでなく、10地区各地区にそれぞれコミュニティセンターがあって、そういった色々な安全を考える、子どものことを考えるところが色々あるわけですから、そういうものもリソースとしてあるということをちゃんと意識していくのは必要なことですね。是非そこは、と思います。</p>
委員	<p>人権擁護委員は、幼児期から小学校、中学校と一貫した人権教育の必要性</p>

	<p>ということを考えて、子どもの心に少しでも寄り添える活動をということで活動しています。</p> <p>その中で、今日も33ページのところが出たのですが、私もつなぎの強化というのはすごく大事だなんてふうに思っています。</p> <p>私たちは、要保護児童対策協議会にも出席させていただきながら、また、皆さんのご意見を聞きながら、相談の1つの機関として活動を広げています。</p> <p>それで、相談の機関や支援の場とか、そういうものが明確に公表されるのはすごく大事なことだと思います。</p> <p>まだまだ支援が不足している部分もあり、拡充する部分もあるかもしれませんが、このような表を示すことで、おおまかであったとしても、相談者がどこに行けばいいのかということをも自分で選べるということがすごく大事なことだと思います。</p> <p>それから、相談を受ける側も、こういう機関があって、どこにつなげばいいのかということも考えられるということが、すごく今回の表からよく出ていると思います。</p> <p>もう少し拡充するということも市から出ているのですが、そんな中で相談者も相談を受ける方も、つなぎの強化をすることで、相談できる体制が充実していけばいいかなと思います。</p>
会長	<p>前の段階で、その辺のところ少し気になったところがあり、今回改善されているならばコメントをいただきたいところですが。</p> <p>助けなければいけない、支援しなければいけない家庭や子どもを見つけた後の体制はいっぱい書いてあるのですが、見つけるというところの拡充が少し手薄なのかな、発見ですよね、そこが手薄なのかなと感じたのですが。</p> <p>その強化というか、ここが網羅していますよというようなところは、何か施策はありますか。</p> <p>どの部分が発見の強化というのですか。</p> <p>本当に網の目を広げて、網羅していないと漏らしてしまうかもしれない。それが起きた後の相談体制とか、支援体制は書いてあるのですが、発見体制の強化がもう少しあってもいいかなと思うのですが、そこはどのようになっていますか。</p>
こども課長	<p>やはり行政だけでケース全てを把握していくことが難しいです。</p> <p>今年度については、34ページの主な取組・事業のナンバー1、拡充とさせていただいている事業ですが、子ども居場所づくり推進事業の中で、子ども食堂に関係する団体の懇談会を定期的に設けさせていただいています。</p> <p>そこで、こんな相談があるのだけれどどうすればいいかというような、色々な相談をお寄せいただいております、育ちあいちのスタッフが出向いて相談をしたりしています。</p> <p>そういった形で、話をすすめてきたところ、子ども食堂の団体の方からは、すでに情報をいただいております。</p> <p>今後も、見つける、発見するというところについては、先ほど委員の方からご意見いただきましたように、地域と繋がっていくことが大事かなと思っています。</p> <p>そのため、地域の方がちょっと何か気になることがあれば、行政の方に情報をお寄せいただけるような連携の強化ができればなと感じています。</p>

会長	<p>32ページの基本方針1、(1)相談・支援体制の充実の2行目で、早期に気づき、適切な支援につなげていくことが必要であるということを訴えている。</p> <p>その拡充が、居場所づくりに入っているではなく、やはり文言としてちゃんと出た方が良いのではないかなと思います。</p> <p>居場所づくりの中に入っているだけだと、早期に気づくことを重視していることが少し弱いかなと言う気がします。</p> <p>つなぎの強化、早期に気づいて適切な支援につなげる必要があるのだと言っているのだけれど、つなげた先の拡充だけになっていて、つなげる前の早期の気づきのところの文言がちょっと弱いのではないかなと思います。</p>
こども課長	<p>まさしく今、発見につながっているところは、CHUKOらんどチノチノや0123広場、学校、園関係といった、やはり現場ですね、それから先ほど申し上げました子育て支援団体といったところです。</p> <p>なので、その他の地域でという部分について、この表以外でも表現が少ないのかなと思いますので、発見という意味での捉え方から表現を変えていきたいと考えます。</p>
会長	<p>表現、そうですね、具体的な取組・事業名としてどうなるかの問題ですね。とても重要だということですね。</p> <p>ちょっとここは、場所を作れば良いのではなく、みつける体制作り強化が主な取組・事業名にならないかということです。</p> <p>それが意見として少し多いのかなという感じがしました。</p>
委員	<p>今まで関心の薄かった分野でもあり、大変なものを作っていただいて、色々な資料を見させていただいています。</p> <p>まだ内容まではよくわかり切れていないので、勉強したいと思います。</p>
委員	<p>まだ細かいところまでわかっていないのですが、市民の皆様はよく考えていただいて、市役所も考えて、良い案になっていると思います。</p> <p>ただ、私は食生活改善推進協議会をしている関係から、34ページに保育園における食育推進事業というのがあるのですが、もう少し大きくなった人たちの食育というのがどこかに入っているのかなと思っています。</p> <p>中学生や高校生になると、もう三食カップラーメンを親から置かれて食べているといったことも無きにしもあらずだと思うのです。</p> <p>そうすると食育活動というのは大切なことだと思うので、どこかに入っているのか教えていただきたいのですが。</p>
こども課長	<p>ちょうど食育活動を担当する健康づくり推進課の課長が欠席となっております、詳しい情報がわからず申し訳ないのですが。</p>
会長	<p>この推進計画に食育というところも積極的に関与しているのか、また、食育で今の茅野市の現状として、小学校は教育をやっているのですが、中高生がどうなっているかという2点かと思うのですが。</p> <p>この計画の中で、どこで扱うのか、あるいはあまり重視しないのかとか、その辺のことで何かあれば。</p>
健康福祉部長	<p>それでは食育の関係は健康福祉部が担当ですので、その関係で発言をさ</p>

	<p>せていただきます。</p> <p>食育計画については、子どもだけというわけではなく、今も高校生まで、一緒に食事を作るという取り組みもさせていただいています。</p> <p>限定的なところでは、やはり家庭で、いつ家で食事を食べられる、作れる、一緒に作って食べるといったことを通したつながりを作っていくようなところですので、小学生までといったことは無いと考えていただければと思います。</p> <p>また、食生活改善推進協議会の皆さんにおかれては、それぞれご活躍いただく中で、地域の皆さんの食生活の改善に貢献していただいておりますので、引き続きお願いできればと思っています。</p> <p>なお、この計画の中での食育関係については、担当部署の方からまたお話ができればと思っていますのでお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>食育みたいなことがこの推進計画の中で積極的に扱うことに入っているのかどうかですね、食育という概念がこの推進計画の中に入っているのか。</p> <p>必ずしも教育の全てがここに入っているわけではないので、そんなに積極的にここでは使えませんということもあるのかなと思いますが、わかる範囲で何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>ここに保育園における食育推進事業という項目があるものですから、その上の学年の子どもたちはどこに入っているのかなということを知りたかったのですが。</p>
<p>こども課長</p>	<p>34ページの4番については、保育園における食育推進事業ということで載せてしまいましたので、その捉え方が、ここしかやってないのかなというふうに、確かに見えて参りますので、そこについて担当課と検討し、やっていることについて入れられるように表記したいと考えます。</p> <p>あと、36ページの16番の親支援事業ということで、こども課で準備をし、来年度、新規事業を考えています。</p> <p>これについては、親子で体験する場を作る、親子で調理実習を行ったりする中で、自分で食について関心を持って、自分でも調理する力をつけていく。</p> <p>また、親子で楽しい体験をして、家庭でもまたやっていただくようにするという事業を新たに考えていますので、そういったところでも、今いただいた意見を活かしながら進めていきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ナンバー16の親支援事業にあること※事業内容見直しというのは、どういうニュアンスのことになるのですか。</p> <p>新規なのに見直しと書いてあるけれど、前回の資料でも見直しとあり、今回も事業の見直しと書いてあって、これはどんな意図があるのでしょうか。</p>
<p>こども課長</p>	<p>こちら、親支援推進事業というのは、今までNPプログラム(ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム)という事業で、親が子育てに関して楽しさを味わっていくというようなものを定期的開催していました。</p> <p>ただ、ここ数年、コロナの影響を受けまして、託児を行ったりすることもあり、開催できていない状況で、じゃあそれを違った形で、できる形態で事業をやるうということで、事業内容の見直しをしました。</p> <p>そのためこのような表記をさせていただきました。</p>

会長	<p>庁内担当部局では通じる書き方ですが、市民に対する内容としてはもう少し説明がないと厳しいです。</p>
こども課長	<p>はい、ここについても、表記を考えたいと思います。</p>
委員	<p>私も計画自体を全部読んでいないわけではないですけど、いわゆる自治体としてできることはかなり細かいところまでやられているなどと思います。</p> <p>ただやっぱり本質的なところで、これを読んでいていつも疑問に思うところが、どうすることもできないのですが、子どもの貧困イコール親の貧困ですよ、ね、親の貧困がなぜ起きているのかということ、もっと上の次元の政治の問題なのですが。</p> <p>そこは、例えば、ひとり親世帯では、やはり特に母親主体のひとり親世帯が多いです。</p> <p>その場合、子どもが小さいから正規社員になかなかない、だから給与が低くて、という負の連鎖がずっと続いているわけです。</p> <p>我々が今そこを言ってもしょうがないのですが、本来は、例えば養育費は給与天引きして、必ずその人に渡るような仕組みができてればかなり軽減されるわけです。</p> <p>正規になれないのならば、最低賃金をもっと大幅に上げるとか。けれど、本来そういうところに手をつけないと、何も解決できないわけです。そういうことは皆さんも多分同じように思われていると思います。</p> <p>そうはいっても、そのような制限の中でどうしたらいいのかという所で、非常によくできていると思います。</p> <p>なので、私は、これを持った時に、できる範囲で色々やられてはいるのですが、妄想があるわけです。</p> <p>妄想しているというのは、例えば資料を読むと、貧困の連鎖があるのですが、その中で、学習も遅れるとある。</p> <p>これはやはり、家に帰っても親がいなくて見てくれる人がいない、貧困だから学習塾にも行けない、それから心身の方のスポーツクラブにも入れない。これもやはり同じように、貧困であるがゆえにどんどん負の連鎖があるわけですよ、ね。</p> <p>でも、その時に悔しい思いをするのは、先ほどもありましたけれど、コミュニティがかなり衰退している中で、地域で何かできないか。例えば、学習支援について、公民館レベルで何かできることはないのかといったことです。</p> <p>それから、コミュニティがあるにしても、コミュニティとは学区なのですが、1番近いのは公民館なのです、住んでいる人にとって1番近いのは公民館。</p> <p>公民館であれば、自宅に近く、比較的安全で、親もすぐに迎えに来られる。そういうところで、学習支援なり、場合によっては、スポーツも一緒にやるということができないかな、ということを妄想しています。</p> <p>やっぱり福祉21も第5層のところを非常に大事だと思っているのです。</p> <p>第5層のところは、今まさに衰退しているところなのですが、現実はかなり厳しいのですけども、そこを何とかそういったことができるようになると、地域としての支援ができる。ボランティアとして学習支援もできるし、スポーツ支援、運動支援なんかもできる。</p> <p>全地域でできないのであれば、そういう人たちを集める、そういう会を集めてできないか。</p> <p>その時には、例えば「のらぎあ」のチケットを渡して支援をしながら乗合バス</p>

<p>会長</p>	<p>で集まってもらい何かをやるというようなことです。なぜ「のらぎあ」のチケットが必要かと言うのは、親が働いているかもしれない、交通手段が無いかもしれないからで、集まる手段として支援をするということです。</p> <p>せっかく色々があるにしても、なかなか有効に活用できていなということです。</p> <p>これは、できる、できないというよりも、できたらいいなという妄想をずっと考えているのです。</p> <p>若い人は難しいと思うのですが、我々リタイア組、全員ではないにしても、ある程度の方が何か社会に貢献したいという気持ちを持っているのです。それが子どもに対することであれば1番うれしいわけです。</p> <p>次世代を担う子どもに何かしてあげられたらいいな、ということは思っているのですが、なかなかそういう機会が少ない。</p> <p>個人的には、自分がやってきたスポーツを教えてあげたい、伝えてあげたいという気持ちで、スポーツでの指導などをボランティアでやってはいますが、そう考える人たちはいると思います。</p> <p>福祉21の第5層の活動など、それからボランティアと、そういう形でどんどんつながっていくと解決の道があるのではなかとと思います。</p> <p>この間、中学校の同窓会があったのですが、やはり中学である程度進路が変わっていく。それまでの学習レベルで分別されるわけです。なので、スタートで外れてしまうとどんどん外れていってしまう。</p> <p>ある程度の能力主義であるにしても、チャンスを活かせない子が貧困家庭にあるということだと思います。</p> <p>だから、その貧困ゆえのところは、せめて周りの力で何とかしてあげたいなと思っています。</p> <p>その思いをどのように実現するかは難しいのですが、皆さんが同じようにこのような妄想を持ってもらえれば、それぞれが何かちょっとやってみようかなという動きにつながるかもしれない。</p> <p>そういう問題意識をもって、子どものために何とかしてあげたい。</p> <p>これは何も貧困だけでなく、貧困の人も入れるような、ハードルの低いような形で何かやれるといいな、というふうに思いました。</p> <p>この計画自体から発展して、なぜ貧困の連鎖が続くのかということ考えた場合に、そこを断ち切るような方法を考えないといけない。</p> <p>要するに、この計画は、あくまでもセーフティーネット的である、ここまで行かないように持ち上げてという。</p> <p>せっかくのところ、もう少し持ち上げてあげたいという場合には、やはり地域の力がなんらかの形で活用できればいいなと思います。</p> <p>妄想がかなり入っていますが、このように感じました。</p> <p>私の聞いた範囲で思うのは、これは経済的貧困だけでなく、学びの機会を失っていることだということ。</p> <p>経済的であれば、経済的な負担がかからない機会を設けようという施策がいっぱい入っていると思います。あとは、経済的に困窮しているところには経済的支援を、という施策があるな、そういうところはある程度入っているなど。</p> <p>それと、あと今、関連していたのは、経済的理由だけでなく、例えば、登校拒否のような、なんとというか、馴染めない子どもというものもある意味では教育。</p> <p>教育の機会確保法でしたか、各市町村には義務付けられている法律ができたかと思いますが、それは結局、今で言うとフリースクールとかいろいろなどこ</p>
-----------	---

<p>こども課長</p>	<p>ろ。</p> <p>なので、お金だけでなく、学べないことが貧困であるというふうにはここでは述べ、定義されているので、おそらくそこ含まれていくのかなと、まさにそれが、誰もが学べるような機会を作っていく。</p> <p>それには、私もいくつか聞いている中で、コミュニティスクールの動きが茅野市中で、実際に地区コミュニティの子育て部会の方が、学習支援のボランティアを始めていたりとか、学校単位で色々な取り組みが動いていたりするということがありますので、まさにそういった事例が共有していくのはあるかと思えます。</p> <p>その辺のことで、施策との関連で何かありますか。学びの機会を、要するに学校が学びの機会とおっしゃるけれど、そこだけでは多様性にこたえきれないというところに対しての、学びの機会を確保するというのは、この施策の中ではどんな位置付けに入っていますか。</p> <p>まずご覧いただきたいのが、34ページナンバー2です。</p> <p>新規事業ということで、放課後子供教室の実施に向けた検討を挙げさせていただいています。</p> <p>これについては、子どもたちが、学校が終わってからの放課後、そういった子供教室へ自由に通えるような居場所作りをしたいと考えています。内容としては、色々なゲームやスポーツ、また、そういった学びの場を提供する。</p> <p>いくつかのハードルはありますが、そんな取組ができたらいいいのかなというところで、挙げさせていただいています。</p> <p>そのほか、ナンバー1の子どもの居場所づくり推進事業になりますが、今、色々な子ども食堂が各地区に立ち上がっています。</p> <p>そこでは、大学生、諏訪東京理科大学の学生さんも、ボランティアで来ていただいて学習支援をさせていただいているようなことがあります。そのように、子どもが歩いていけるような場所に、そういったものを作ればすごくいいのかなと考えています。</p> <p>先ほど委員さんからも、非常に色々なご意見をいただき、事務局としてもまさしくそうだなと感じています。</p> <p>また、ひとり親の件については、やはり経済的な問題があがっておりますが、こちらも育ちあいちのに母子父子自立支援員という専門の職員がおりますので、是非ご相談いただければと思います。</p> <p>今は、家庭裁判所に調停の申し立てをいただくと、相手の方の給与から養育費を引いてもらえる手続きや、離婚届も、どのように子どもさんとの面会を取り決めたかとか、養育費の取り決めを行ったかというようなことを表記するようになっています。</p> <p>そういったところがちゃんとできているかというようなことも把握できるようになっているのですが、まずは相談に来ていただければ、そういった支援というのもできます。</p> <p>また、こども課の事業の中では、38ページナンバー32ひとり親家庭等支援事業の高等職業訓練促進給付金という中で、保育士や看護師、介護士といった色々な手に職をつけるための学校等に通った場合の給付金がかなり充実した金額で出ます。</p> <p>そういったところを利用していただいて、経済を安定させるために、安定した職業に就くことが1番重要と考えています。</p> <p>女性にとっては、手に職を付けるということが、これからの自立につながるの</p>
--------------	---

<p>会長</p>	<p>かと思しますので、そういったところの事業を是非活用していただきたいと考えているので、その周知についても、強化していかなければいけないというところを、ご意見を聞きながら考えました。</p> <p>また、ナンバー39の就労準備支援事業という事業を地域福祉で行っておりますので、あわせて周知を考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。</p> <p>今の委員からの質問や、意見に対しての支援も、この策定の中に入っていると、広い意味で入っているということですね。親の就労支援も入っているということなのかと思われました。</p> <p>あと、追加での学びの機会ということ、要するにすべての子に合った学びという多様性、学びから漏れてしまうことが貧困につながっていくといったところは、少し手薄かと思うのですが、どの辺で捉えられて、どんな考えになりますか。</p> <p>お金が無いから学校に行けないではなく、お金がないから塾に行けないではなく、その学びが自分に合っていないということが、非常に、たぶん出てきますよね。</p> <p>そういったことに対して、民間とかでは、フリースクールとか色々な対応が出ているのですが、そういったことも広い意味での機会を失っている、貧困にあたる感覚と規定されているのですが。</p> <p>そこに対しては、どこかの施策と対応しているといったことがありますか、ちょっと手薄かとは思っているのですが。</p>
<p>こども課長</p>	<p>ただいまの意見について、つながっている施策に、追加事業としてですが、教育の支援というところで、34ページのナンバー7の心の教育事業で、特性によった、特性を持っているお子さんについての中間教室の設置や、スクールカウンセリングの実施というところで、それぞれ個々のお子さんに適した教育、場所、そういったところを考え実施しているところです。</p> <p>特性によってなかなか登校できないお子さんにつきましても、35ページのナンバー13にあります子ども家庭支援拠点事業で、現在、スクールソーシャルワーカーが市費で2名、県の派遣で1名います。</p> <p>そういったところで、お子さんに家の中に引きこもるだけでなく、関わりを持ちながら、少しずつ登校支援を一緒になってやっていく体制が整っていますので、13番についても拡充とさせていただいております。</p>
<p>会長</p>	<p>34ページ7番心の教育事業で、スクールカウンセリング等もあるけれど、個々の児童生徒に応じた適切な教育を推進するという中に、学校教育だけではない学びの機会均等ということも入っているというふうに解釈してよいということですか、ちょっと弱い気がするのですけれど。</p> <p>スクールカウンセラーを通してということだから、学校ベースになってしまっている気もするのですが。</p> <p>登校拒否になると学校ベースで対応できるのかという感じがしたりするのですが、その辺はどんなふうにとらえていますか。</p> <p>多分かなり顕著に問題になり始めていることかなと思うのですが。</p>
<p>こども課長</p>	<p>そうですね、最近フリースクールというものが民間で立ち上がってきて、そこのこの繋がりをどうしていくかというのも課題に上がってきています。</p>



	<p>市として行っている事業については、そのお子さんの特性を、スクールカウンセリングで、また臨床心理士もおりますので、適性の検査を行って見立てをしていくということも行っています。</p> <p>その他、市だけでなく、資料編になりますが、7章資料編の41ページに長野県の子どもの貧困対策関連事業ということで、やはり色々な居場所的な事業やカウンセリング的な事業、スクールソーシャルワーカー活用事業といったところ、また子ども支援センター運営事業というところがあります。</p> <p>そういった市だけでなく、県として行っているところにもつなげていくことも考えていきたいと思います。</p> <p>また、市内各4中学校にも、また、小学校では玉川小学校に、サポートルームということで、教室以外でもお子さんが過ごすことができる場を置いています。</p> <p>また、中間教室として、ちのコミュニティセンターに適応指導教室、宮川小学校内にフレンドリールーム、そういったところを設けていますので、すぐにそこに繋がるかというとなかなか難しいものもありますが、スクールソーシャルワーカーなどがお子さんと寄り添いながら、そういった多様な場所への登校支援を行っているという状況です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>問題意識はあるけども、ちょっとまだどう扱っていいか検討中であるという回答かなと思います。</p> <p>それから、今の中で出てきた7章資料編のところなのですが、ここに掲げられている長野県の取り組みを、この推進計画ではどういうふうにするということになっているのでしょうか。</p>
こども部長	<p>子どもの貧困の対策を進める上で、市の事業というのは市の予算事業が主になってくるのですが、やはり市だけではなく、県の実施している事業があるので、計画の中に載せることによって、市だけではない取り組みを推進するよという意味合いです。</p> <p>県の事業を含めることによって、市民の方も、市だけの計画じゃなく、県も見ながら、こんな事業を活用していけるというところを知ることでもできるなと思う中で、資料編に入れさせていただきました。</p>
会長	<p>例えば、育ちあいちのに相談をしにきたら、こういった県の事業とかとつなぐようなことも。</p>
こども部長	<p>紹介をする。</p> <p>例えば、住宅で、県営住宅の優先入居みたいなものは、43ページの25番のように県の事業であるのですが、市の住宅の中でなかなかできないことを県の住宅で行っていればそちらを案内できたりする、といったこともあるので。</p> <p>両方見ながら、市が行っていない県の事業にも繋がるという意味合いを含めて、入れさせていただいているところになります。</p> <p>やはり、市だけの独自事業ですべて補えるかというところでもないもので、やはり国の事業だとか県の事業だとかというところも、しっかり活用していくという意味合いを含めて入れさせていただいているところになります。</p>
会長	<p>はい、わかりました。</p> <p>途中の別な話題で、委員への質問と回答の中で、来ていただければ支援体</p>

委員	<p>制があるということが強調されていて。      気づいてつなげてあげるところが拡充として必要なのかな、と改めて感じましたので、是非そこはしっかりとする方がいいかなと。      用意はして、待っているだけではなく、ということなのかなと思いました。</p> <p>はい、ありがとうございます。私からちょっと2点質問させていただきたい。      まず1点目は、もしこの推進計画の冊子ができ上がった場合、これは一般家庭に配布されるのですか。      どういう形で市民に周知されることになるのですか。</p>
こども課長	<p>主には、ホームページでの公開ということになります。      市の色々な計画については、今後、冊子化をしない方向となっておりますので、それは統一し、ホームページが主な公開の場所になると考えています。</p>
委員	<p>先ほど複数の委員さんがおっしゃっているように、困っている家庭はどこに相談したらいいかわからないというのが現実にあると思います。      パブリックコメントの2番にもありますが、応援したい人や困っている家庭がどこに相談したらいいかわからない、どのようにつながって支援できるのか、実際のロードマップがわかると良いというご意見をいただいているので、これは是非考えていただいて、      予算を使うようなことは難しいと思うのですが、何らかの形で本当に困っている人に届き、立派な推進計画が、私たちが作って自己満足、で終わらなければいいなということを感じています。      それと、私は読書の森読りーむinちのという団体から出させていただいているのですが、1番最初の素案をいただいた時に、私たちの団体が何か意見を言えるところがあるのかなと見させていただいて。      皆さん、読りーむinちのとは何ぞやと、知らない方もいらっしゃるかと思うのですが、私たちは公民協働で茅野市の読書活動を推進している団体です。      間違っていたらごめんなさいのが、読み聞かせをしている団体と捉えられることです。公民協働で子どもたちのために、心と言葉を育てるってことを理念に置いて推進をしている団体です。      茅野市の子どもの中には、貧困家庭では、本を買えない子どもがもちろんいると思います。      それで、茅野市では、小学校に入る前までに実に4冊の本を市からいただけることになっています。      赤ちゃんの出生届が出された時に1冊、4ヶ月健診の時に1冊で、保育園等でいただく関係の1冊、小学校入学する時に1冊ということで、4冊の本をいただいています。      貧困家庭では、欲しくても本を買えないという方がいると思うので、そういう家庭のために、公共図書館の本の充実、こども館、分館の本の拡充等も視野に入れていただきたい。      実際にこの計画案の中には、そういう細かいところは明記されていないと思うのですが、その辺のところも少しわかりやすく書いていただけると嬉しいなというように思っています。</p>
会長	<p>今の、質問ですよね。</p>

委員	<p>そうですね、最初の方はホームページで公開ということで承知しました。</p> <p>あと、教育の支援ということにつながると思うのですが、読書活動とか本の購入とか、細かいところですので具体的に書かれていないと思うのですが、例えば、図書館の充実みたいな文言がどこかに載っているのかというのが、読み取れなかったのので、教えていただければと思います。</p>
会長	<p>茅野市と言えば、日本の中でも読書活動を推進しているのがかなり有名な自治体になっている中において、この推進計画の中で特にそういうところにウエイトを置いているところあるか、というような質問かなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
こども課長	<p>現時点でこちらにはそういった文言が入ってない状況です。</p> <p>ただ、この計画に載ってないからといってそこをやらないのかということではないので、今いただいた意見を、生涯学習課、また図書館等にも伝えさせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>公というか、公共性のある活動をするっていうのは、やはり民間のボランティア団体とか色々なところであって、行政がやることだけが公共事業ではないと言うか。</p> <p>今、まさに連携という言葉があるのですが、私は、連携と協働という2つの言葉があるかなと思うのですが、連携はおそらくお互いが違う目的で事業をしているのだが、時には連携すると、お互いの目的に相乗効果があるというのが連携かなと。</p> <p>それに対してもう1つ、協働というのは、同じ目的のために協力し合うのかなと。</p> <p>だから、そういう意味では、この色々なところと連携していく、協働していくというようなことがたしか書かれていたので、そういう活動になっていくのかなと、そんなことを改めて思いました。</p> <p>説明の最後の方や途中にも、市だけではできない、ということは何度もおっしゃったと思うので、そういうことが入っていくのかなと思います。これが意見というかコメントになります。</p>
委員	<p>37ページの26番のこころの相談事業のところ、少し気になったのですが。</p> <p>健康状態や生活困窮等による自殺を予防するため、こころの健康についての講座の開催や臨床心理士による面接を実施するとありますが、これは親に対するこころの相談事業なのかなと解釈したのですが。</p> <p>今回、私は子どもの命を守るということを考えてきたので、例えば、お子さんが自殺を考えると、自殺未遂をしようと、そういった時はもう医療しかないのか、それとも、市では何か予防のためのことをやるのか。</p> <p>7番の心の教育事業はどちらかと言うと不登校や発達障害という、自殺とかでは無さそうだったので違うかなと。</p> <p>13番の子ども家庭総合支援拠点事業のところ、少し関わってくるのかなというのと、41ページのチャイルドライン支援事業というところがかかってくるのかなと思ったのですが。</p> <p>最近、子どもの自殺っていうのも社会的な問題になってきていると思うのですが、その辺もどうお考えかなと思ひまして。</p>

会長	<p>かぶっているように見える中、積極的には命を守るとか、子どものカウンセリング的などがよく見えないということですが。</p>
こども課長	<p>まず、37ページの26、こころの相談事業については、おっしゃる通り大人の方、親が対象になった事業になっています。</p> <p>35ページの13番の子ども家庭総合支援拠点の、家庭教育カウンセラーによるカウンセリングを行う、というようなどころでは、親御さんももちろん、またお子さんについても受けることができますし、県の派遣事業ということで各小中学校にスクールカウンセラーが入っております。</p> <p>また、学校で何か相談したいことがあれば、その秘密を守った上で、お子さんまたは親御さんがカウンセリングを受けられるというような、体制になってきているところです。</p>
会長	<p>ちょっとこの辺に関しては、この策定計画の素案が完璧であるかということではなく、掲げられていることに問題があるのではなく、まさに足りてないところがあるってところなのです。</p> <p>今のご意見も、まだちょっと足りていないところなのかな、というように感じました。そういった認識でよろしいですか。</p>
こども部長	<p>今のことに関しては、実際は、SOSの出し方事業のようなものも実際におこなっているのですが、ここへの書き込みに少し足りないところがあるかなということを感じます。</p> <p>そのため、もう1回、健康づくり推進課と打ち合わせさせていただきながら、どのようにそこを表現していくかという部分で、市民の皆様にはわかりやすさが伝わっていくかなと思いますので、再検討させていただきたいなと思っています。</p>
会長	<p>あとはそうですね、ここに書かれたことはホームページに載せるということで、この周知の方はまたちょっと別課題であるということですね。</p>
委員	<p>パブコメにはなかったもので、育英事業についてです。</p> <p>先ほど委員さんもおっしゃったように、経済的に困窮している家庭は学習塾に行けない、習い事もできないので、それをこの計画の中では、放課後子供教室という国の施策を、こども館とか学童クラブと連携して、その中で何かできないか今後検討していくということになっています。</p> <p>そうやって、行けない子どもたちにも学習の支援をしていく、また、今現在でも、子ども食堂の方々が教えてくれたり、地区もやってくれていたりしていることもあります。</p> <p>しかし、私は、施策としてやっていくのだけれど、せっかく今回作っている計画の中で、すべての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していけるまちという理念のもとに、計画を策定しているのなら、今ある育成事業の内容等も含めて、今後検討しなければならないと思っています。</p> <p>計画の育英事業には、能力、将来性等を有しながら、経済的理由により高等学校等に修学することが困難な家庭に対して、奨学金を支給又は貸与するとあります。</p> <p>一生懸命、ずっとここを眺めていたのですが、この将来性を有しという中を、</p>

<p>会長</p>	<p>すべてをひっくるめてこれで言ってくれているのか、とも思います。  今現在の育英事業の中身を見てみると、いくつかのクリアしなければならない課題があるのだが、この計画の中で救っていかなければいけない子どもたちというのは、そのこのところにおいて足が届かない子もいるわけで。  そういう子どもたちも、希望を持って努力してやっっていこうって言って、その負の連鎖を断ち切って、1人で自立して一人前の大人になっていくのを応援していけるような制度にしていけたらいいのではと思っています。  ここは直してもらいたいなど。  補足の資料の方には、県の事業として、高等学校の授業費の補助とか、生活に困窮している家庭にはというような文言のものもあるのだけれど、茅野市として、そこを作っていくためのこの育英事業の中身が、もう少し考え直して、時代に即した、今の子どもたちを救えるような、応援できるような事業に改善できないかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>能力将来性を有しながら、というところが、ある意味では有していなかったら支援しないよ、ともとれなくもないのだが、というニュアンスがちょっと入った感じですね、多様性の目標がありますからね。  そういうところでいいですか。この言葉が、例えば学力がある程度なければ支援しないよと言っているわけでは無く、もっと色々な可能性を見ているのかということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>そうなる、この育英事業の、今ある茅野市の事業の中身の文言も、検討して変えていかなければいけないので、そこを検討していくべきではないかなと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>育英事業の対象者を、何か限定しているような表現になってはいないだろうか、そんなところですかね。そんな感じかなと思ったのですがいかがでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>育英につきましては、基金を活用して、貸与もしくは貸付というような中身で運営していただいております。  ここにあがるにあたりまして、経済的理由等があって、この姿勢に基づいてやっております。  限られる基金がありますので、ある程度の条件をつけさせていただいて実施しておりますが、委員にご意見いただきました通り、内容につきましては、肯定的なものではないと思っておりますので、内容について必要に応じて見直しをすることも必要だと感じておりますので、ご意見、参考にさせていただいて今後検討させていただくと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私も、奨学金の審査委員の1人なのですが、委員が心配されるような、資質で切るというようなことは過去、最近何年間のところではなかったと思います。  基本的に、希望すれば、枠があれば与えられるというような状況だったと思います。  なので、問題は予算だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今の状況はパイがあるので、計画を立てて、そういう家庭に対して対策をしていくのに、茅野市の大きな支援の1つとして、この育英事業って言っているの</p>

<p>会長</p>	<p>か、ここももしかしたら違う名前もあるかもしれないけれど、こういうものをもう少しと充実させて、頑張ろうとしている子どもたちを応援できるようなものにしていかないといけないのではないかと。</p> <p>せっかく作る計画なのだから、そういうところに踏み込んでいくべきではないかということです。</p> <p>この育英事業は、PTAの連合会長ということで会議にでたことがあるのですが、私が出ていた時は応募者が減っているというような、だから、もらえるかも、もらえるはずなのに、人が来なくなってしまっているというのが、もう6、7年前の当時ですけど、今はどんな状況ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっとその話とずれちゃうのかわからないですが。</p> <p>私が今話を聞いている中で、働き方改革っていうもの生まれてから、部活動が少なくなっていると思います。</p> <p>それで何が起きているかという、私に関わっているクラブチームがあるのですが、経験者が少なくなっている、クラブチームが立ち上がっています。</p> <p>そこを、私たちがボランティアでやっていくと私たちが負担になってしまう。</p> <p>そうすると、子どもたちの家庭からお金を若干いただくという形になる、それはこの計画とは逆のことをやっているのですよ。</p> <p>となると、これから先、特に中学になるのかと思うのですが、働き方改革によって部活が手薄になると、クラブチーム、民間に投げるのではないかと考えています。</p> <p>そうすると、能力とか将来性というのは、スポーツに限らず、他のことでもですが、学校では乏しくなっていくのではと思うので、そういう部分を考えれば、もう少し民間の方にお金をおろしたり、市の施設を無償で貸したりといったことをやっていかないといけない。</p> <p>やっぱり基本理念にある夢ですね、将来に夢や希望を持って成長していけるまちってなったところには当てはまらないのかなと思うので。ここはすごく大事な部分ではないかと、話を聞いている中で改めて思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>確かに話題がちょっと期待したお尋ねと違うのですが、それも懸念としてあるということですね。</p> <p>あと、一つ前の私の話ですが、お金の金額の問題であるという話と、制度のあり方が違うから該当者が応募できていないのではないかと、という2つがありそうな気がするのですが。実際はどうなっていますか。</p> <p>先ほどお金が限られているから優先順位つけなければいけないという話でしたが、私の当時の認識では、結局応募してくる人があまりないといった感じだったのですが、今は違いますか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>これまで、貸付に関しましては、近年申請もありません、貸与につきましては毎年申請があります。</p> <p>非課税世帯が条件になっていますので、全ての家庭が申請できるというわけではないものですから。</p> <p>貸付については、ここで制度改革をして、条件によっては返済免除というような見直しをしましたので、今年度は2件の申請がありました。</p> <p>全体的に減っているというわけではないのですが、市の育英基金以外にも、色々なところに奨学制度等はあるので、自分の選択をされているのではない</p>

委員	<p>かと感じています。</p> <p>私も審査委員のメンバーなので、それはよくわかっています。よくわかっていた上で、なおかつ、今、出したので。 私はそう思いますということです。</p>
会長	<p>その設計が、もう少し見直しが必要だろうということですよ。 それから、別にありました意見について。 確かに部活動を民間にといった話も聞くのですが、民間に自主的に行くのと、学校の運営を民間に委託するという、何かその2種類があるのかと思うのですが、その辺ちょっとご説明いただけますか。</p>
学校教育課長	<p>部活動の地域移行化ということでスポーツ庁、また文化庁の方から示しがされています。</p> <p>先ほど委員さんの方から、働き方改革というお話もあったのですが、働き方改革が主な目的ではない、と感じています。 今後の子どもたちの運動環境、また文化環境等がこのままで継続できるかどうか。</p> <p>少子化の中、団体スポーツがなかなかできなくなってきており、今後は1つの学校で1つのチームが組めないような状況も考えられることもあるため、子どもたちのスポーツまた文化をこのまま継続をしてやっていくために、是非地域の力をお借りし、継続していきたいということで国から示されている内容になります。</p> <p>今、学校教育課、また生涯学習部が中心となって、地域移行について、今後どのように進めていいかということで検討を始めております。</p> <p>スポーツに関しましては、市のスポーツ協会等にもご協力をいただきながら、どのような格好が1番茅野市の運動部活動の地域化ということに良いのか、という検討を始めておりますので、またある程度具体的になったところでご相談をさせていただければと思います。</p>
会長	<p>私の方から、パブリックコメントにも載っていることでもあるのですが。 やはり、全部網羅しきれていないわけではない、フリースクールといったところとの連携とか、どう関わっていくのかはまだ課題であるというような。</p> <p>今は、この策定の議論はしているのですが、やはり、これが策定された後の推進ということも考えなければいけないことだと思います。</p> <p>それで、最後の体制ですかね、そこに随時見直しをしたり、方向修正、軌道修正等をしたりとありますが、茅野市がどうやって職員を雇っているかというのはちょっと預かり知らないところあるのですが、やはりなんというか、行政の担当の中も専門家を雇って行政を作っているわけではないのかなと。専従である職員が当たっているのかなと思うのですが。</p> <p>そうすると、時代とともにいろんな変化が起きている中で、専門家とか民間で関連する事業をやっている人の中で、足りないところの意見を吸い上げながら、実施計画をやっていくような、そういった専門委員会みたいなものがある方がいいのではないかと思います。</p> <p>行政も計画が立ったけれど、まだまだ懸案事項が多くある。この応援会議の中の策定そのものの中に、必要に応じて専門委員会を設置できるというふうに書いてありますので。</p>

	<p>またここにパブリックコメントの行政の中にも、そういった新たな会議体、専門委員会、要はその専門家や、実際に民間でそれに関わる事業をしている人たちの中で、もちろん我々も市民の代表として来ているわけですが、さらに専門性の高い当事者を集めたようなその推進を具体的に考えて、一緒に行政と考えていくような、そういった専門委員会がある方が良いのかなというの思いましたが。</p> <p>検討していきますと書いてありますけども、改めてその実施体制の強化に対してはどのようにお考えでしょうか。</p>
<p>こども課長</p>	<p>今回の計画は、貧困対策についての計画というところで、こども課としては、どんぐりプランという別の計画がありまして、そこには4つの施策目標があり、この計画はその部分を支えるところに特化して作ったものになります。</p> <p>来年度、このどんぐりプランの中間見直しということで、見直しをして後期計画を策定していくところがありますので、そこも含めて今後どうしていくかという検討が必要になってくるのかなと思います。</p> <p>どんぐりプランについても、前回の会議で、やはりこのこども・家庭応援会議の中から、策定に向けての専門委員を選定いただき、委員会を立ち上げて、見直しを行っていくということをお示しさせていただいたので、そこでの専門委員会といいますか、策定委員を選抜した委員会ということでやっていきたいと考えます。</p>
<p>会長</p>	<p>なるほど。私もそこら辺を少し考えたのですが。</p> <p>今想定しているのも、プランの、要するに、文言の見直しをする委員会になっているのに対して、私が思ったのは、実施していく時の中に、今のこれが計画なのですけれど、それをパブリックコメントで反映するにしても、まだまだ足りないところとか、ここに書いてあることがすべてではないということで、専門委員会みたいにつけて、市民の知恵とか、そういったものを集めて、詳細実施計画を練っていくような体制を作る方が良いのではないかと。</p> <p>といって、我々がそういうのを作っていくっていうのも、条例の文言からするといけるのかなと思うのですけども。</p> <p>ここに書いてあるそのパブリックコメントに対する44、45、46かな、そういった会議の設定も検討してまいりますっていうのは、今言ったどんぐりプランの見直しの委員会ではなくて、その推進のための、実施を考えていくような委員会を作るっていうことを検討するという表現で、解釈でよろしいですかね。</p> <p>今だと、どんぐりプラン見直しの中で入れていくっていうのも、そのプランの見直しであって、やはり計画の文言なので、実施そのものの意見、これ途中で計画に書いてある最後の実施体制は、いろんなところと共同してやっていかなきゃいけないし、軌道修正してやっていきたいとあるのですけども、それだと、まさにそのずれがあったかを、しばらく経ってから市民と、ということになっているから、そうではなくて、もう実施していく詳細のところでも、できる限り入れていくような方が、いいのではないかな、というふうなつもりでの質問だったのですが。</p> <p>どうですか、今だとプランの見直しの中に入れるからいらない、というふうなことにもちょっと聞こえたのですけど、推進のための専門委員会っていうのを検討した方がいいのではないかとということなのですけども、どうでしょうか。</p>
<p>こども課長</p>	<p>まさしく、このこども・家庭応援会議が推進のための進捗状況を確認しな</p>



	<p>がら、このどんぐりプランに沿った進捗状況の管理をしていく会と考えていますので、また別の会を立ち上げて、そこの関連性をどのような、この会議との関連性をどう考えていくかっていうようなところも考えていかなければいけないのかなというところと、あと専門性の高い方を入れていくというようなところで、やはり、どういう方をそういったところに入れていくのかっていうようなところも、必要となってくるので、すぐに回答できない部分があるのかなというふうに捉えています。</p>
<p>会長</p>	<p>できないのは結果であって、やる方向を決めることはできると思うのですけどね。</p> <p>それから、今おっしゃるように、進捗をチェックするということで、結果なわけですよ。</p> <p>そうではなくて、実施段階から、まさにどんぐりプランの条例が言っているように、この計画段階から市に取り込んでいく、プランを立てるだけじゃなくて、実施詳細計画にも入った方が。</p> <p>今回の場合、かなりまだ補足分があるので、例えば、気づきの部分の強化をどうやるのかということこれからやると。</p> <p>そうすると、そこに市民の関連する、まさにそういった状況を知っていて、状況とかを共有できれば、そういったところも、広い意味での専門家として居ると、そうなると推進がより確実になるのかなと思うのですけども。</p> <p>検討ですから、そういう方向性はよろしいのかなと思っていますけども、いかがでしょうか。</p> <p>ここでどういう風に決めると、それは決まったことになるのですか。</p> <p>あった方がいいって言ってみんなが云々って言ったらそういうことで動くということではよろしいですかね。</p>
<p>こども課長</p>	<p>皆さんのお考えはどのようなお考えなのですか。</p> <p>またこの会とは別に、そういった専門委員会を立ち上げた方がいいというお考えなのでしょうか。</p> <p>それをちょっと確認させていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私の意見ですが、まずは私、他に、今無いかな、障害福祉部会というところの部会長もやっているのですけども、やっぱり、大事なものは、市民のニーズをどれだけ計画に盛り込めるかということだと思います。</p> <p>あとは、行政ができるところ、あとは他のボランティア、下支えするところというような形でバランスよくやっていくってということだと思いますが。</p> <p>ここでは確かに今は文言の修正になっていますが、実際は、下案を作ってもらえるとしても、それに対して色々言って、実行計画そのものに関わっている、というふうに思っていますので、新たな意見を、委員会を設けるというよりも、いきさつも全部知っているわけですから、この中でそういう人たちが実行にあたって、これはできてないよとか、これをもっとやった方がいいよ、ということ言えば。</p> <p>あと、専門家っていうのは、コンサルタント的に、世間的に見て、こういうのをもっとよく知っている人に、アドバイスをもらうという意味ではいいのですが、こういうのでいいのは、やっぱり市民の声を直接聞いて、それを推進計画に盛り込めるということだと思いますので、新たな専門委員会というのは、私は必要ないのではと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>はい、ちょっと藪蛇だった気がします。</p> <p>市の考え方としては、パブリックコメント45番のところで、その専門のある会議体そのものの設置も、この会議で検討してまいりますという方針なので、今決める話でもないのですが。</p> <p>実際には、計画立てて推進的に、まさにさっき言った生命のところとか、緊急性のところとか、まだまだ。</p> <p>実態として、もっと民間の方の色々な団体が活動している中で、もっと色々な生の声が入った方が、行政の策定には有利ではないかということで、何か広げた方が。</p> <p>まさに、行政の負担を減らすために市民の知恵を総動員する、それが茅野市の掲げるパートナーシップのまちづくりの精神なのかなと思いましたので。</p> <p>今後も、この設置を検討していくということで、了解でよろしいですか。</p> <p>そうすれば、市民も、そういったことに関わっている声がいっぱい反映された実際の実施計画になっていくという話もあるし、行政の方も実際の市民の声を反映した実施プランができるようになる。</p> <p>大きな枠組みはここで決まるにしても、実際の実施計画が重要になってくる。</p> <p>そこでの意見が集約できるための何かしらの形を考えていくというのを今後の活動、ということによいですか。</p>
<p>こども課長</p>	<p>その辺りについても、はっきりしたお答えをこの場では言えませんが、やはり計画を立てていく上で、今は時代の流れがすごく早くなっていると感じています。</p> <p>その中で、どうやったら本当に今の時代の流れに合った計画を策定し、推進していけるかというところで、その体制を考える上では、やはり複数の会議で検討するよりも、この会議をもう少し有効的な場にする、また、現在の委員さんだけで良いのかという、そういった検討が、これから事務局としても他の意見を聞きながら検討してきますが、複数の委員会を設けることがいいのかどうか、ということを含めて、考えさせていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>パブコメの市の考え方の方がもっと積極的だと思ったが、しっかり聞いたら意外とちょっとネガティブになった気がしているのですが。はい、わかりました。</p> <p>まあ、私が条文を見て解釈した限りでは、まさにこの策定がこの会議体に委託されているように、この会議体をつくっている条文が、そういった必要とあれば、推進のために専門委員会を作ることができるということを行政が引いているということであれば、どうしたら作れるかという時の受け皿としては、ここが会議で作ってあげることではないか、と思ったりしましたので、または是非今後も検討していただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見あれば、またもう1つ聞いて終わりにしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>それでは、ありがとうございます。</p> <p>審議は終わりました、次第4、その他として、今後の予定ということで、事務局からお願いいたします。</p>

事務局	<p><b>4 その他</b></p> <p>今後の予定について説明。          庁内の会議である推進本部会議が2月13日に予定されています。          また、本日いただいたご意見について、また、それに対して検討した結果についてお示ししながら、計画を修正したものを皆さんに郵送でご覧いただくようにしたいと考えています。          お送りしたものをみていただいて、なおご意見ありましたらお寄せいただきたいと思います。意見の期限といったことも、お送りする中にお示しをさせていただきたいと考えています。          今年度については、本日で、こども・家庭応援会議は終了ということで予定していましたので、予定通りとしたいと考えています。</p>
会長	<p>支援会議は本日で終了ですか、今何の説明だったのか。</p>
事務局	<p>計画策定について、あと、会議も今年度については今回で終了ということですので。</p>
会長	<p>2月13日にやるのは。</p>
事務局	<p>推進本部会議といいまして、庁内の会議になります。</p>
会長	<p>わかりました。          現時点では、今年度の会議は予定されていないということですね、わかりました。          あとは委員で確認ということになりますので。          今後の第4回の会議は今のところ予定されていないということでご了解いただきたいと思います。          それでは閉会にしたいと思いますので、両角副会長よろしく申し上げます。</p>
副会長	<p><b>5 閉会</b></p>